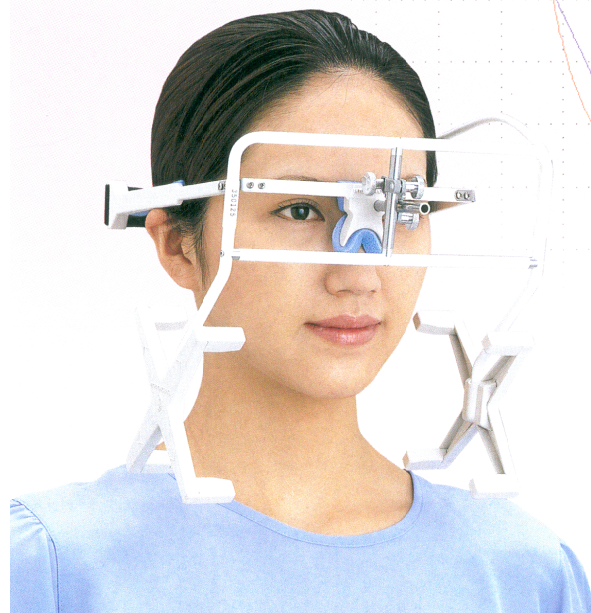


# K7 Evaluation System

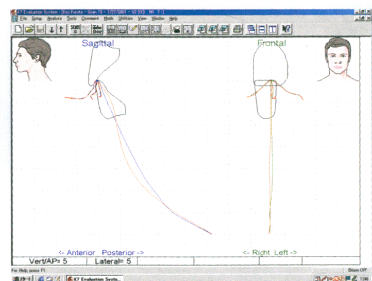
## より正確な診断が可能になり、 効果的な治療ができるようになります。

K7エバリュエーションシステムは操作性が良く、コンパクトで使いやすい顎口腔機能診断装置です。下顎運動、筋電図、顎関節音データは審美的で機能的な咬合診断に役立ちます。K7は臨床に即した機能性を持ち、さらにソフトも充実して、顎口腔機能の診断領域がひろがります。

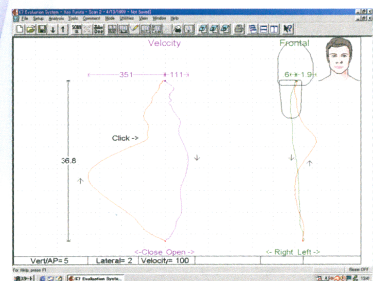


### 下顎運動記録

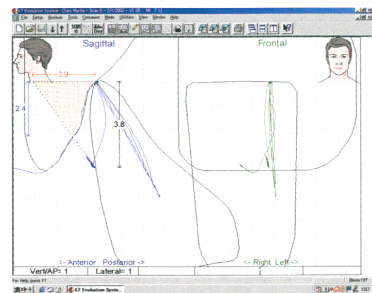
マグネットを口腔内に取り付け、センサーを装着することで、生理的な下顎運動を記録分析することができ、高精度なエキスパンドセンサーは、軽量でフィット感が良く、患者の負担が軽減されます。また、下顎位を可視的に計測し、付与することができることにもあゆる顎運動の診断を可能にします。



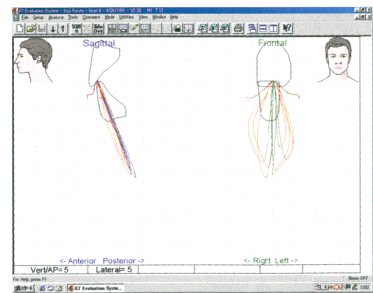
**SCAN 13**  
SCAN 1もしくは13は、習慣的開閉口運動時における矢状面・前頭面記録です。垂直的並びに水平的最大開口量及び最大側方偏位量が表示されます。



**SCAN 2**  
SCAN 2は、急速開閉口運動時の垂直速度と前頭面の同時記録です。最大開閉口速度及び開閉口時の最大側方偏位量が表示されます。



**SCAN 5**  
SCAN 5は、筋リラクゼーション後の矢状面と前頭面記録で筋肉に誘導されたマイオトラジェクトリーを画面に表示させ、筋肉位と咬頭嵌合位を一致させるのに必要な情報を提供します。

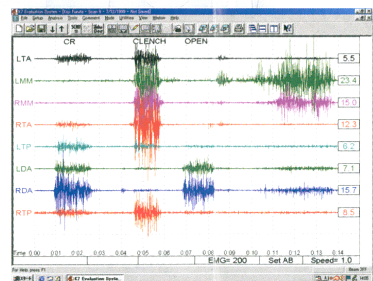


**SCAN 8**  
SCAN 8は、咀嚼時における矢状面と前頭面の同時記録です。咀嚼パターンを解析して診断に利用します。

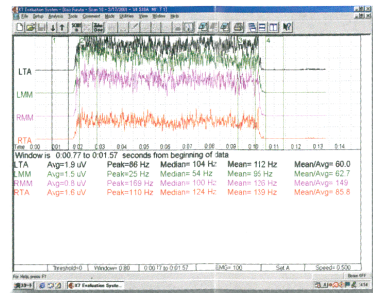


### 筋電図記録

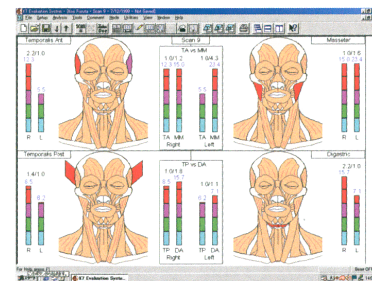
臨床用に開発された、使いやすく信頼性の高い歯科用筋電計です。表面電極を用いて咀嚼筋の活動電位を8チャンネルのEMGデータとして処理し、分析することができます。



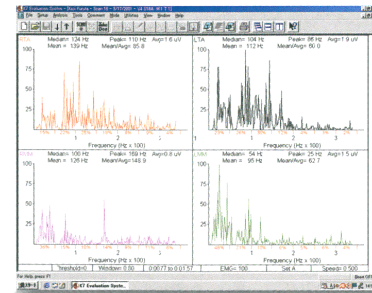
**SCAN 9**  
SCAN 9-12は、筋電図記録を行うためのものです。SCAN 9は、筋リラクゼーション前の安静時における筋放電活動を示し、各筋の平均放電量を表示します。



**SCAN 18**  
SCAN 18は、筋疲労の判定を行うために10秒間の噛みしめを行いEMG処理波形データを表示します。



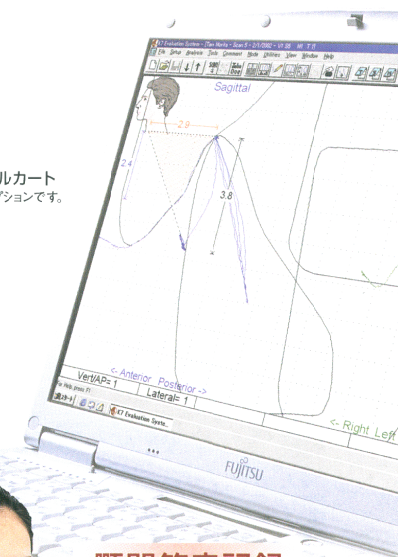
**患者教育画面**  
患者教育モードを使用することにより、それぞれの筋活動値の平均値が筋肉図上に表示され、左右の筋活動値が棒グラフ上の比率で表示されます。



**SCAN 18の分析画面 (一部)**  
噛みしめ前の安静位と噛みしめ直後と10秒後の筋電位のスペクトル分析を行い比較することで筋疲労の度合を判定します。



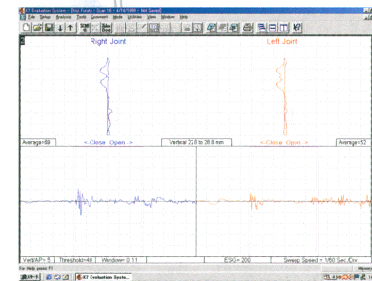
**別売品**  
K7用モバイルカート  
※プリンタはオプションです。



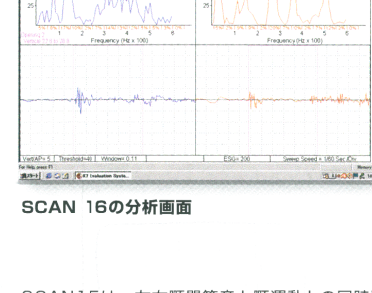
### 顎関節音記録

高感度トランスデューサーを左右の顎関節部に位置づけ、開閉運動時に顎関節部から生じる音の波形を捉え、分析することができます。

OPTION



**SCAN 15の記録画面**



**SCAN 16の分析画面**  
SCAN 15は、左右顎関節音と顎運動との同時記録で、SCAN 16は、左右顎関節音のみの記録です。分析画面を選択すると時間軸カーソルで指定した範囲内の顎関節音の周波数分析を行い関節雑音の定性・定量的分析が行えます。